

榎津博士

寒河江・山形の元気のために



現在、日本は少子高齢化が進むとともに本格的な人口減少社会を迎えておりまます。このような状況下で、農産物など各自地体間での販売競争は激化の一途をたどっており、県産品の国内だけでの販路拡大はたいへん厳しい状況に置かれております。

このようなことから、山形県独自の国際経済戦略を開拓して、本県のすぐれた農産物や県産品の販路の拡大を目指し、観光誘客による経済の活性化を目指した取組みが進められております。

吉村知事は、昨年6月の中国、黒龍江省ハルビン訪問を皮切りに、本年4月に韓国を訪問。5月にはロシアを訪れ、国際交流の促進、県産品の販路の拡大や

県政・活動報告書

発行●榎津博士事務所 発行責任者●榎津博士
事務所●寒河江市元町三丁目3-3 大和ビル2階
電話●0237-84-7117 FAX●84-7118
URL <http://h-umetsu.jp> E-mail:h-umetsu@ic-net.or.jp

さらなる山形の発展を目指して

平成二十二年六月定例会一般質問

平成22年6月定例会が、6月7日より23日までの17日間の会期にて開会されました。私は一般質問の初日である6

月10日に、県政のさらなる発展に向けて質問させていただきました。

観光誘客のPR活動、そして貿易の振興などに精力的に取り組んでおられます。

質問項目は次の通りです。

1. 海外との経済・観光などの交流促進に対する知事のご所見について
2. 経済成長著しい中国に対する本県の経済戦略の展開について
3. 環境施策の推進について
4. 緑の分権改革推進事業の取組みとクリーンエネルギー開発の推進について
5. 中山間地域の農業振興について
6. 東京銀座に昨年オープンしたアンテナショップの機能強化策について
7. 観光誘客促進に向けた施策展開について
8. 本県の口蹄疫対策について
9. 雇用促進に向けた取組みについて

私が吉村知事に質問した項目は次の通りです。

【海外との交流促進に対する所見について】

今年度に策定する新たな国際経済戦略においても、①「世界の市場」へと変貌する中国への本格的な展開、②有望市場として可能性の高い極東ロシアへの新たな展開、③韓国、台湾など従来からの重点地域での取組みの加速・拡大といった、相手国

や地域の特徴を十分に踏まえた幅広い展開の方向性の確立について明言。このような考え方のもと、農産物等の輸出や国際観光の振興をはじめ、海外での現地事業の展開、これらの活動の基礎となる人材育成などの取組みの方向を的確に定め、本県の国際経済戦略を強力に推進していきたいと答弁されました。

【中国に対する経済や観光の戦略としての活動拠点の設置について】

中国に活動拠点を設けて、東アジアとの交易・交流を一步前に進めたいとの思いで、今、まさに熟慮に熟慮を重ねているところであります。

本県におけるこれまでの海外事務所の開設例を見ますと、我が国の海外機関（ジェット）の海外事務所に活動拠点を置いたものや、他県との部分連携を目的に、同一建物内に設置したものがあります。いずれの場合も、連携できる事柄については一部メリットを享受できるものの、県を挙げての総合的な対応を考えた場合は、課題を残す取組みでなかつたかと感じております。

このように、山形県として県内の関係機関が協力して取り組める独立した体制を構築してはどうかと考えていると答弁されました。

このように、東アジアとの経済・観光などの交流促進を一步進めたいとの思いは、私と同様であると答弁をいたしました。

質問内容と答弁については、三つの項目を抜粋して掲載させていただきます。

中山間地域の農業振興について

答（農林水産部長）

本県の中山間地域は、耕地面積、農家戸数、農業産出額とも県全体の6割程度を占めており、農林水産業を振興する上でも大変重要な地域であると認識しております。

このため県では、中山間地域等直接支払制度を活用し、耕作放棄地の発生を抑制するとともに、地域の耕作放棄地対策協議会を通じ、多様な担い手の参加を促しながら、その解消に努めております。

平成21年度には中山間地域を含め、8市町村、27haの耕作放棄地を再生し、本年度からソバ（白鷹町）や山菜（最上町 ワラビ）など本格的な作付を始めております。

また、中山間地域の活性化や所得の向上を図り、集落の自立的な地域づくりを促進する観点から、毎年8地区程度専門家や県職員を現地に派遣するなどし、地域が元気になる取組を支援しております。

新たに創設された農林水産業創意工

本県の中山間地での耕作放棄地は、平成2年における耕作放棄面積は2、291haでしたが、平成17年では4、